

(別紙4) (西暦) 2021 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870101870		
法人名	医療法人社団協栄会しゃらく		
事業所名	グループホームしゃらく		
所在地	茨城県水戸市中丸町604-1		
自己評価作成日	2021年6月	評価結果市町村受理日	2021年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JieyosyoCd=0870101870-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

しゃらく理念・フロア理念を大切に、ご利用者様個々の希望、要望を収集し、共有する事で、その方を主体とした支援を行なっている。職員間での情報共有は勿論のこと、ご家族への定期的な電話や面会時には、生活の様子を報告し、共有できるよう努めている。また、ご利用者様1人1人の生活歴や保有能力を生かし、生活の中で、調理・食器拭き・買物・裁縫など、活躍できる場面での支援を行っている。コロナ禍ではありますが、社会生活を営むに当たり必要な機能を維持するため施設内だけではなく、地域に出向く事を当たり前としており、外出に関しても検討しつつ努めている。花壇コンクールでは、ご家族様と共に花壇作業をし、地域の運動会や他事業所のお祭りにも参加していましたが、昨年からは開催が中止となっております。外出は減りましたが、行事から季節を感じ、お誕生会等のイベントを楽しむことを念頭に置いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で様々な制約がある中、利用者の得意を見だし、発揮する場面を作ることで残存機能低下防止に努めている。利用者本位のケアを基本とし、感染症拡大の状況を鑑みながら、感染防止対策に万全を期して外出支援も実施している。誕生日会や施設内のイベント等で季節を感じる工夫をしている。感染予防マニュアルを作成し、必要物品の整備やシミュレーションを実施して全職員が共有している。BOP委員会で災害及び感染症対策に関する計画策定を行っている。例年開催している、地域住民や家族との時間を共有する夏祭りは、緊急事態宣言下の為、利用者だけで開催したが、事業所内に露店が並び、神輿も出て、楽しいひと時を過ごしてもらえた。利用者や家族の不安を軽減する為、予約制の面会や2ヶ月毎のひだまり新聞、月1回の電話連絡で利用者の近況を知らせるなどの取り組みをしている他、日頃の様子を動画にとり、DVDにて配布したところ、沢山の家族から感謝の言葉が届いた。
*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームと各フロアで理念を作成しています。認知症ケアと地域密着を理念にかかげ、エントランスホール・各フロアに提示されており、理念に基づいた支援をしている。	事業所独自の4つの理念と各フロア毎の理念を作成し、エントランスホールや各フロアに掲示して意識付けを図っている。ひだまり新聞にも理念を載せ、事業所の取り組みを知らせている。職員は何がケアの基盤であるかを理解し、利用者主体の生活支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花壇コンクール・敬老会・市民運動会へ積極的に参加してきた。地域の人々と交流する事を大切にしています。近隣のスーパーに買い物に行ったり、祭りの際には駐車場をお借りする等の馴染みの関係を築いている。ただし、昨年は、コロナ禍で祭りは開催できていない。	例年通り、花壇コンクールに参加しているが、積極的に参加していた敬老会や市民運動会は新型コロナ感染症の影響で中止となっている。家族から「地域に足を運ぶことは大切」という話があり、法人や事業所の情報や広報誌等にアルコールウェットティッシュを添えて地域にポスティングを行った。民生委員にも、いつでも相談窓口になりますと伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りを地域交流の一環とし、開催時には、パンフレットを置き、入居の有無を問わず相談受付をしている。また、夏祭りが出来なかったので、ポスティングも兼ねて、法人内の他事業所についての情報や施設の特色なども練り込み、地域の方に発信している。他に作品・写真展示を外に行い、ホームでの暮らしぶりを紹介し、交流を図っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現況や検討事項を報告し合い、理解と協力体制を築いている。会議で出た意見や提案は、管理者・主任からフロア会議・全体会議等で報告し改善に繋げている。	2ヶ月毎に家族・民生委員・地域代表・高齢福祉課・西部高齢者支援センター・事業所担当者のメンバーで開催。現況や検討事項を報告し、席上で意見や提案はサービス向上に活かしている。職員にはフロア会議や全体会議で管理者から報告し共有している。家族会で閲覧できるよう、議事録を置いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、報告・相談している。また、その都度、質問や疑問があれば、連絡し助言を頂いている。市から介護相談員の方がいらっしゃった際には、施設の特色や理念・入居者に対する支援の方針などを積極的に説明している。	日頃から担当課とは連絡を取り合い、質問や疑問にアドバイスをもらう。介護相談での訪問時は情報交換を行う。参加しているグループホーム連絡協議会やケアマネ会、中学生の体験学習受入れは中止となっている。地域住民や子供達とは日頃から交流が取れているので、何かあれば、事業所に助けを求めてくる関係性ができている。成年後見制度を利用する利用者もおり、職員向けに権利擁護の勉強会を開催している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成し、各フロアに設置されており、全体に周知されている。また、全職員対象に研修を年に2回開催している。転倒や転落などの危険性の高い方に対し、話し合う場を持ち、ご家族と話し合い、理解を求めながら身体拘束以外の策を講じている。	身体拘束防止マニュアルと指針を作成し、各フロアに設置しており、職員はいつでも確認することが出来る。3ヶ月毎の委員会や年2回の研修会を開催し、ベッドの高さを調節する等の事例を取り上げ、様々な策を講じて利用者の安全・安心に向けたケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し、各フロアに設置しており、全体に周知されている。また、全職員対象に年に2回研修を行い、虐待に関する関心や意識は高い。虐待の早期発見と対応できる環境に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族がご高齢になり、成年後見人を立てたケースが多くなってきた為、職員が理解を深められるよう権利擁護の勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は、十分な時間をとり納得頂けるまで説明し、1つ1つ確認しながら、管理者が行っている。契約後の制度改正時は文書を作成し説明し、同意を得ている。コロナ禍で「家族会」が開催できていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話報告の際にご家族の意見や要望を引き出せるよう努めている。また、入居者様の状態に応じて随時面談の場を設け、ご家族のご意向等の確認をしている。年に1度、家族会を開催し、家族同士が意見交換できる場がある。(コロナ禍で昨年未実施)	面会時や電話連絡の時に意見を聞く機会を設けている。意見箱の設置・第3者機関名を明示し意見の吸い上げに努めているが、そちらからの要望や意見は無い。例年、家族会の前にアンケートを実施している。昨年はコロナ禍で家族会は開催されなかったが、アンケートは実施し、結果を家族に報告している。面会制限により、家族が利用者の日頃の様子を見る事ができず不安を抱いているのではないかと考え、利用者の生活の様子をDVDにまとめて家族に渡し、喜ばれた。感染予防対策や面会方法の工夫がされ、職員間の情報共有も出来ており安心しているとの意見が寄せられ、職員のやりがいに繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各個人やフロアで意見を出せる環境作りを行ない、全体会議で意見を聞く機会を設け、出た意見を活かすようにしている。そこでの意見を元に会議の進行方法や勉強会の実施へと繋がった経緯がある。また、職員の意見を元に働きやすい環境作りとして、保育園・学童を運営している。月1回の主任会議で職員からの意見を反映させている。	運営に関しては事前に知らせている。新しい職員は全職員で育てる体制となっている。個人面談で評価を伝え、意見や要望を聞き、就業環境の整備に努めている。現場の気づきや月1回の主任会議で職員の意見を反映させている。希望に応じた内・外研修を受講出来る体制となっている。受講後は伝達研修を実施し、全職員で共有している。コロナ禍で業務量が増えているが、いつでも管理者・主任と話し合える時間が取れ、管理者から労いの言葉があり、ストレスや不満はないとの事。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給・年2回の賞与があり、管理者はその都度、個人面談を行ない評価の内容を伝えると共に職員の意見や想いを聞き出している。	
13		○職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	回覧板で研修案内を回し、自由に参加する事ができる。また、研修を受けた職員は、レポート提出と伝達講習を開く取り組みもしている。法人内の人材育成委員会の勉強会の中で、各職員の能力に応じて必要とする勉強会も定期的開催されている。	
14		○同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内ではあるが他事業所の管理職が会議を通して相互向上に繋げたり、職員同士も人財育成の勉強会を通して関わる機会がある。その他にも高齢者支援センター主催での交流会に参加した職員や管理者は介護支援専門員交流会に積極的に参加している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係	サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される際の不安や混乱を軽減できるよう、入居前から法人内事業所は勿論のこと、法人外事業所・自宅等ご本人の元へ出向き、信頼関係の構築に努めている。ご本人や家族の不安や苦勞・要望をゆっくりにきくようにしている。ご本人にとってどのような支援が望ましいか、共に考えて行く姿勢で対応している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係	サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前情報を元に入居時にはご家族から1つ1つ丁寧に情報を伺うと共に要望や不安な事を聞きケアプラン立案や介護支援に活かしている。また、入居後数日間は、より細かな情報共有を様々な方法を用いて行なっている。	
17		○初期対応の見極めと支援	サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを伺い、施設長・管理者・職員でカンファレンスを行ない、緊急性の有無や代替のサービスが適切かなどを見極めるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などを助け合う気持ちを大切に一緒にいる中で経験に基づいた事を教えて頂いたり、時には職員が励まされたりいたわって頂けるなど日常の何気ない事から信頼関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には面会前に近況報告を必ず行い、情報共有や思いや要望を伺うことに努めている。また、本人と家族が過ごしやすい雰囲気づくりにも心がけている。入居者様の様子に変化があればその都度連絡をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の段階で馴染みの場所を伺う様にしている。昔から利用している美容室等があれば、関係が継続出来るような支援を行ったり、ご友人が遊びに来て下さるような環境づくり、馴染みの関係が途切れないよう支援している。しかし、コロナ禍で思うように支援が行えていない。	家族や親族へ年賀状や絵はがきを送ったり、電話をかけるなど、大切な馴染みの人との関係継続に努めている。コロナ禍前は家族と墓参りや敬老会、外食に出かける方もいたが、現在は自粛されている。乳酸飲料の購入を続けている方がいる。職員や利用者同士との関係が深まっている。グリーンケアの一環として、旅立たれた利用者の入盆にはお線香をあげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や個性、相性などを理解し、把握した上で席の配置を工夫したり、必要に応じて職員が間に入り会話の橋渡しをしている。利用者同士が円滑に関わりが持てるよう職員間で話し合いの場を持つ事もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グリーンケアの一環として入居されていた方の入盆には必ずお線香をあげさせて頂いている。便りを下さったり、訪ねて下さるご家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いを引き出せるように努力している。また、ご本人が伝えることが困難な場合は、家族の意向を聞きながら、本人の立場になって何を求めているのか、汲みとるよう努めている。	日々の会話の中から希望や意向の吸い上げに努めている。趣味や家事(買い出し・調理・盛り付け・食器拭き・洗濯たたみ・掃除・花の水やり等)で役割を持ち、利用者のやりがいに繋げる工夫がある。意向の把握が困難な場合には、選択が出来るような問いかけ方をし、表情や様子から推測したり、家族の情報を参考にしながら、利用者の立場に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、これまでの生活歴・習慣・好み等を伺いアナムネーゼを作成し活用している。また、本人、家族との関わりを積み重ねながら把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握			
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時には、必ず申し送りノートや生活記録を読み状況の把握に努めている。また、得た情報を職員間で共有できるよう随時、報・連・相を行なうと共に記録に残し申し送りで伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング			
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランマニュアルを作成し、ケアプラン委員会を中心に効果測定を行ないながら必要時には見直しを行っている。モニタリングとアセスメント、ご本人にご要望をお伺いしたり、ご家族のご意向やご要望等を基にカンファレンスを開き、ご本人に合った支援を検討し介護計画を作成している。各職員が計画担当となり、計画作成担当者と共に取り組んでいる。状況の変化に応じて見直しもしている。	ケアプランマニュアルを参考に、居室担当者が利用者・家族からの要望を基にアセスメントを実施し、計画作成担当者とプランを作成している。プランは担当者会議で家族に説明し同意を得ている。記録の重要性を全職員で共有し、丁寧な記録がされていた。6ヶ月毎にモニタリング・評価を行い、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映			
		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の意見を吸い上げて、記録の重要性と活用方法について主任を通して発信し、随時見直しを行なっている。介護計画に基づく記録を記載し情報共有している。その他、必要に応じてデータを取るなどしてケアや介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化			
		本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のご要望を受け、外出支援を行なっている。個別対応に重点を置き、利用者のニーズに応じて支援している。個別に指圧師の方が訪問して下さり、マッサージを受けていた方がいる。また、ご自宅にご主人に会いに行かれた方もいる。現在は、コロナ禍で思うような支援が行えていない。		
29		○地域資源との協働			
		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ヘルパーの資格を持たれている理美容室があり、状態に変化が見られてからも訪問カットで来て頂いていた経緯があり、今でもお付き合いがある。また、カラー等の施術が困難な方でも受け入れて頂けるまでの関係性を築けた美容室もある。ご家族の希望で、訪問マッサージを受けていた方もいる。現在は、コロナ禍で思うような支援が行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援			
		受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけの病院を確認し、継続して受診できるよう支援している。また、同法人の病院にとらわれずご本人の状態に合わせ、専門機関の受診を選択して頂き、ご家族の様々な認知症の捉え方にも細かな対応を行い、ご理解を得ながら進めている。	法人母体の病院に限らず、かかりつけ医への受診支援を行い、受診後は家族に報告している。コロナ禍の対応として、家族が同行する受診の場合は家族が事業所に迎えにくるのではなく、現地で待ち合わせをすることになっている。受診結果を受診記録と生活記録に残していることが確認された。訪看が週1回入り、体調管理やアドバイスを受けている。特変時は法人母体の病院で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働	訪問看護事業所や病院の看護師との情報共有に努めている。必要時には助言して頂き適切な対応が出来るよう取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働	入院時には「申し送り書」を作成し、病棟看護師に申し送りをしている。可能な限り面会や電話にてご本人の状態を確認し、フロアで共有できるようにしている。管理者も病院のメディカルソーシャルワーカーと連絡を密に取り合うなどし、少しでも早い退院を目指している。その際、必要な場合にはリハビリ指導も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	入居時には、終末期等に対する意思確認書を作成している。利用者様の状態に応じて、ご家族との面談の場を設け想い・意思・意向を確認し共有に努めている。また、ご家族の揺れ動く想いに寄り添い、柔軟な対応ができるよう支援している。	契約時に終末期等の指針を説明し、意思確認書を作成している。利用者の状態に応じて家族との面談の場を設け、再度意思確認を行い、希望があれば柔軟な対応をとりながら、旅立ちに向けたケアにチームで取り組んでいく。	
34		○急変や事故発生時の備え	年に1回、救命救急の講習会を当事業所で行っている。法人内の他事業所でも同様の講習会を実施しており、参加出来る環境がある。各フロアに事故対応マニュアルを配備している。		
35	(13)	○災害対策	年に2回消防訓練を行い災害時に努めたり、シェイクアウトにも参加している。夜間を想定した避難訓練も行う予定になっている。災害対策委員会があり、委員が中心となり、備蓄物の確認・補充をすると共に定期的に会議を開き、内容は全体会議で発信される為、周知している。災害対策マニュアルを配備している。	年2回の自主・消防署指導の訓練を実施し、昼夜を問わず利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけている。定期的に備蓄品の確認・補充を行い、会議で見直しを図っている。前回の評価を受け、運営推進会議や訓練前に、実施のお知らせと協力依頼を行っている。風水害災害マニュアルを整備し、それぞれの災害に即した対応が出来るようになっている。近隣のドラッグストアには有事時等に協力を得られるよう依頼をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	人生の大先輩である事を常日頃から重んじ、尊敬の念を持って人格を尊重し、自尊心を損なう様な声掛けとならぬよう心掛けている。フロア会議でもその都度議題にあげ重要性を認識している。また、対応の乱れに留意し、職員間で指摘しあえる環境に努めている。	利用者の人格を尊重し、自尊心を損ねない対応を心がけている。利用者が触れてほしくないことや言われたくないことの情報を共有し、職員間で注意し合える環境である。書類は事務所内で管理し、情報開示に関する同意書を取り交わして個人情報保護に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	確認・選択した上で自己決定にて支援を行なっている。困難な方に対しては、表情から読み取ったり、何気ない声かけをしたり、寄り添うなど思いを受け止める事が出来るように支援している。日頃から本人の思いや希望を汲み取り、職員が同じ支援が出来る様に情報の共有を行なっている。また、不満も表出できる関係性の構築もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望に応じて買い物・外出・家事活動を行なっている。その時々を思いを大切に、形にできるような時間や職員の調整を行なっている。個々の時間に合わせ食事時間をずらしたり、自室に配膳するなどの支援も行っている。また、決められた献立以外にも要望時には好きな物を食べられる環境がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から、おしゃれとして化粧の支援を行い、一緒に化粧品の購入などの買い物にも出掛けている。また、好きな服を着たり、購入したり出来るよう支援している。入居前と同じように美容室に通えるように支援したり、体調等を考慮し、職員が毛染めも行っている。整容にはいつも配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日一緒に昼食を考えている。買い物を始め、調理・片付け等、それぞれの得意分野で個々が最大限に力を発揮している。家事の指導を頂くことも多い。誕生日には、リクエストに基づいた献立を考え、お祝いをしている。一緒に出かけることで、季節を感じられる行事や食材にふれる事ができている。現在は、コロナ禍で思うような支援が行えていない。	主菜は栄養課職員が調理し、味噌汁やご飯はユニットで作る。各ユニット毎に利用者と一緒に季節の食材を使った献立を考え、買い出しや調理、味付け、配膳、下膳、食器洗い・拭き等を行っている。訪問調査当日は、家族から提供されたジャガイモを使ったコロケを利用者が準備してくれた。感染予防の亚克力板を設置している。利用者の状態に応じた形態で提供し、栄養バランスにも留意している。誕生日のリクエスト食や手作りおやつは食が進むとの事。食事介助を行いながら、他の利用者の箸の進み具合や嚥下に注意している。外食支援も実施した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定を基本とし、記録・増減の把握をしている。体重の増減によっては測定回数を増やし、観察強化する方もいる。食事量・水分量も記録に残し摂取状況も把握し利用者の栄養状態に留意している。同法人内の施設より副食の配送があり、管理栄養士により栄養バランスは確保されている。また、個々に合わせた食事形態やトロミ使用・食事や水分の代替ケアなども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄やうがい、ブラッシングなど個々の状態に合わせた支援を行なっている。うがいが困難な方に対しては、口腔ケアティッシュを使用したり、ブラッシングが困難な方にはマウスウォッシュを使用し口腔内の清潔を保つと共に、起こり得る疾病に対しても理解し取り組んでいる。毎晩ポリデントの支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しながら、トイレ誘導や介助を行ない、出来る限りトイレで排泄出来るよう支援している。カンファレンスを行ない、個々に合った排泄方法、排泄用具を見極め支援している。リハビリパンツから綿パンツになられた方がいる。	一人ひとりの排泄パターンやチェック表、様子から声掛けを行い、自室トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。タイミングを見計らった声掛けと利用者の意欲により、リハパンから布パンに改善した方がいる。自然排便にむけて、乳製品・オリゴ糖・運動・腹部マッサージ等の中から、その利用者に応じた方法で取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を確認しながら出来るだけ自然排便を促すように、個別に毎日乳製品やオリゴ糖等を提供している。運動の促しや腹部マッサージを行なったり個々に合った対応方法を見つけ出し便秘予防に取り組んでいる。安易に内服薬に頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人と相談しながら入浴支援を行い、その他に排泄での汚染時には、様子や状況に応じて入浴支援も行っている。目安として週2回の入浴を行い、困難な場合には、清拭・部分浴・ドライシャンプーなどの支援もしている。状態に応じて、一般浴で入浴できるよう2人対応・バスボードやバスチェア使用などの工夫を行なっている。困難な方には、座浴での入浴支援を行なっている。シャワーに対する嫌悪感から拒否が見られる方に対しても支援方法の工夫を行なっている。(好きな音楽をかけるなど)	利用者の希望に応じた入浴支援(最低週2回)を実施し、清潔を保持している。状況に応じて清拭・足浴・部分浴・ドライシャンプーや汚染時の対応を実施している。2人対応・バスボード・バスチェアで安心して入浴できる工夫をしている。拒否される方には臨機応変な声掛けや支援方法で対応している。ゆず湯・しょうぶ湯・バスクリン等を提供すると喜ばれる。皮膚感染予防として、1人入浴することに湯船を洗浄し、湯と足ふきマットを交換している。着替えの準備は利用者とは相談しながら行っている。巻き爪は訪看が処置をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて起床・静養をして頂いている。日中に適度な活動(家事・買物・外出・ボール投げなど)を促し生活のリズムを作る事で安眠ができるよう支援している。夜間スムーズに入眠に繋がれるよう、個々に応じて夕食時にはノンカフェインの物を提供している。また、個々の眠りに繋がるような取り組み(足浴や足のマッサージなど)を行なっている。また、淋しさから居室で休めない方に対しては、フロアに簡易ベッドを置くなど眠れるようアセスメントを行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箋はカルテに保管しており、いつでも確認出来る様になっている。処方変更や追加処方があった際は申し送り、共通理解を図っている。内服介助の際も誤薬などに注意を払い三重に確認体制を取っている。提携薬局を作り、管理することで、事故を予防し、また、いつでも連絡を取り合える体制を整えている。医師ともいつでも相談できる体制がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や情報を基に役割や興味のある事を探っている。「手がこんなに動くようになりました。」と喜びを持って清拭や洗濯物をたたんで下さる方もいれば、料理をされるなど得意分野の支援を行なっている。歌が好きな方が多く、ご家族がカラオケの機械を持って来て下さり、楽しまれてる事がある。また、部屋に氷川きよしのポスターを貼ったり、TVの録画を見て楽しめる方や、動物番組を見たり、ご家族が持参された故郷の映像を見て懐かしむ方もいた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や外食などのご希望があった際は、希望に添えるよう支援している。季節を感じられる場所へドライブしたり、コロナ禍でも楽しめるよう下見するなどして実現できるよう支援している。外出先のお店にも事前に連絡をする事で、協力を頂けている。	コロナ禍ではあるが、感染予防対策をとり、希望があれば買い物やドライブ、外食にでかけている。事前に下見してお店に協力依頼をしているので行動がスムーズである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の希望や、個々の能力に合わせ管理方法を検討している。個々の支払い能力に応じて支払いの支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいとご希望される時は、フロアの電話や事務所の電話を使用しゆっくり話せるよう環境を整えている。ご利用者と一緒に年賀状を準備しご家族へ送っている。個別に絵はがきを作成しご家族へ送るのを楽しみにされている方もいる。また、ご家族からのお手紙の意図や思いを理解し、読んでいただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは南に面しており常に自然の光が差し込む明るい環境である。温湿度計を設置し、こまめに調整・管理している。季節の花を飾ったり、風習、行事毎に飾りつけをする等、季節感を大事にしている。また、生活音から不快にならないよう配慮している。	ユニット入り口や壁に利用者やイベントの写真を飾り、面会に来た家族との話題提供にもなっている。換気・温度・湿度の管理を徹底し、快適な空間となっている。季節感を感じる飾りつけを行い、見当識への配慮も見られた。昭和を感じる鏡台や足踏み式ミシンは懐かしさがあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席はご利用者同士の関係性や身体状況を考慮し検討している。変更が必要な場合には混乱を避けるため必ず話し合いの場を設けている。気の合う方同士がソファで寛いだり、周囲を気にせずに家事や読書を楽しむ姿も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、馴染みの物の大切さをご家族に伝え、居室には出来るだけ馴染みの物を持って来て頂けるよう働きかけている。湯飲みや箸・寝具等の身の回りのものだけでなく、昔の趣味の茶道具を持って来ている方もいる。その他に家族の写真を飾られている方もいる。また、自室入口を開放したままでも他者から中が見えない様、暖簾をかけている方もいる。	小物や趣味の茶道具、チェストやイス、テーブル等を配置し、居心地の良い居室となっている。ベッドの高さやマットの硬さは利用者の状況に応じて調整している。ポスターやぬいぐるみ、家族から贈られた感謝のカード、花や遺影、家族の写真等が持ち込まれ、利用者一人ひとりの個性を感じた。プライバシー保護の為、居室入り口には防災の暖簾をかけている利用者がいる。掃除は利用者と一緒にしている。災害時の避難済み確認は居室入口のプレートで確認出来るようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の居室の家具の配置・ベッドの位置・高さ・マットレスの固さもその方に合った物を家族様と相談し検討している。ご本人の状態の変化に合わせてその都度環境整備を検討し、安全な生活導線となるよう配慮している。自室が分からなくなってしまう方へ居室入口に花飾りを飾っている方もいる。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム しゃらく

目標達成計画

作成年月日 : 2021年11月11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の消防訓練を実施。近隣住民にお知らせをし、参加を促し続けているが、2020年からの新型コロナウイルス感染症の発生も影響し、近隣住民参加型での実施が思うように実現しない。	近隣住民が消防訓練の見学に来る	①お便りの内容の変更②運営推進会議を用いての発信、また、民生委員から地域住民への発信を依頼する	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。